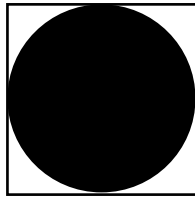


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 178

2026. 9

〒113-0033 東京都文京区本郷2-30-14 文京ビル206号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 西村 徳行

ニュース担当 矢澤 聡

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

何の役に立つかが、まだ決まっていない

事務局理事 畑山 未央

先日、ゼミの学生たちと、袖ヶ浦市で行われた子ども向けの音楽フェスにて、造形と音を楽しむ場をつくる機会がありました。さまざまな廃材や紙、モール、鈴など、身近な素材を数多く用意し、参加者がそれぞれの仕方で素材や音に関わって表現や遊びを楽しめることを意図したものです。始まってみると、子どもたちの姿は実にさまざまでした。素材をじっくり選ぶ子、思い思いに組み合わせる子、音の違いを確かめる子、ほかの人の様子を見てから関わり始める子、一度その場を離れて再び戻ってくる子もいました。そして、私たちの想定を超える関わり方や表現が次々と生まれていきました。

Nicholson (1971) が提唱した「ルースパーツ」という考え方があります。石や木片、布、容器、紐など、動かしたり、組み合わせたり、つくり変えたりできるものが環境に豊かに存在することで、子どもの創造的な関わりの可能性が広がるというものです。振り返ってみれば、先のフェスで用意した多様な素材にも、これと重なるところがありました。素材の面白さの一つは、その場で何に使うのかがあらかじめ一つに決められていないことにあるのではないのでしょうか。

そうした経験は何の役に立つのでしょうか。例えば、用途の定まっていない素材に向き合い、自分なりに試し、考える経験は、未知の状況において自分なりに考えながら進もうとする力にもつながり得ます。私自身、近年の研究では、他教科の専門家に美術の価値を伝えるためにも、「美術にはこのような役割がある」「〇〇力の育成に寄与する」と、その意義を考え、言葉にしていけることが重要だと考えてきました。それは、美術教育の価値を社会に共有していく上で、今後も大切なことだと思っています。

一方、目の前の経験について、すぐに「これは何の力が身につくのか」という将来の有用性に結びつけて意味づけようとする、子どもが何に関心をもち、素材とどのように関わり、何を試そうとしているのかという、経験の過程そのものを十分に捉えられなくなることもあるのではないかと感じています。そもそも、美術の表現では、一人一人が自分なりに試し、考え、表し方を探っていきます。その過程は一樣ではなく、そこから生まれる表現もまた異なります。だからこそ、素材の使い道や表現のゴールをあらかじめ決めすぎず、一人一人がどのように関わり、何を見出していくのかを受け止める余地をもちたいと思います。そしてそれは、美術教育の価値についても、特定の役立ち方だけに決めすぎないことにつながるのではないのでしょうか。

「何の役に立つかを急いで決めないこと」。その余白もまた、美術教育が大切にしてきたものの一つなのだと私は考えています。

第60回 日本美術教育研究発表会2026 案内

☐ 日 時：令和8（2026）年10月4日（日）9：00－16：30（予定）

☐ 会 場：武蔵野美術大学鷹の台キャンパス 12号館

対面＋オンライン（Zoom）によるハイフレックス

*発表者・参加者共に現地参加。ただし、海外からはオンラインによる発表が可能。

☐ 主 催：公益社団法人 日本美術教育連合

☐ 後 援：（申請中）

※最新情報は、日本美術教育連合HPに掲載されますので、ご確認ください

公益社団法人 日本美術教育連合 第9期 理事会・運営委員会 任期：令和8（2026）年5月11日～令和11（2029）年5月第19回定時総会			
理 事 会			
理 事 長		西 村 徳 行	統括
理 事		笠 原 広 一	国際局担当・InSEA評議員
理 事		手 塚 千 尋	研究局担当
理 事		畑 山 未 央	事務局担当
理 事		三 澤 一 実	事業局担当
監 事		大 坪 圭 輔	
監 事		結 城 孝 雄	
運 営 委 員 会			
研究局 公益目的事業 1	理 事	手 塚 千 尋	研究局運営委員長
	運営委員	立 川 泰 史	研究局運営委員長代理・論集編集委員会委員長
	運営委員	家 崎 萌	(国際局運営委員兼任)
	運営委員	池 田 吏 志	
	運営委員	小 林 貴 史	
	運営委員	竹 丸 草 子	
	運営委員	廖 曦 彤	(国際局運営委員兼任)
	局 員	清 家 颯	
	局 員	藤 井 康 子	
	局 員	和久井 智 洋	
国際局 公益目的事業 2	理 事	笠 原 広 一	国際局運営委員長
	運営委員	家 崎 萌	(研究局運営委員兼任)
	運営委員	片 桐 彩	
	運営委員	山 田 猛	
	運営委員	廖 曦 彤	(研究局運営委員兼任)
	局 員	小 島 菜緒子	
	局 員	森 本 謙	
事業局 公益目的事業 3	理 事	三 澤 一 実	事業局運営委員長
	運営委員	井 上 昌 樹	
	運営委員	大 杉 健	
	運営委員	佐々木 敏 幸	
	運営委員	佐 藤 牧 子	
	運営委員	茂 木 克 浩	
	運営委員	山 田 空	
	局 員	小 西 悟 士	
	局 員	栗 津 謙 吾	
事務局	理 事	畑 山 未 央	
	事務局長	岩 崎 仁 美	
	運営委員	大 櫃 重 剛	
	運営委員	川 人 武	
	運営委員	矢 澤 聡	
	局 員	大 橋 里沙子	
	局 員	杉 山 聡	

研究局より

■第60回 日本美術教育研究発表会2026【第二次案内】■

公益社団法人 日本美術教育連合理事 研究局運営委員長 手塚 千尋

大会概要

- 開催日時：令和8年（2026）年10月4日（日） 9：00～16：30（予定）
- 会場：武蔵野美術大学鷹の台キャンパス 12号館（東京都小平市小川町1-736）
 交通アクセス <https://www.musabi.ac.jp/access/>
 キャンパス案内 <https://www.musabi.ac.jp/outline/facility/map/>
- 開催形態：対面＋オンライン（Zoom）によるハイフレックス
 ＊発表者・参加者共に現地参加。ただし、海外からはオンラインによる発表が可能。
- 参加費等：会員・一般2,000円 学生・院生1,000円
- 研究交流会：無料
- 主催：公益社団法人 日本美術教育連合
- 後援：（申請中）



参加者・発表者のみなさまへ

- 参加登録期間：6月22日（月）10：00～9月27日（日）23：00
- 参加登録：<https://peatix.com/group/7506961>（Peatix：日本美術教育連合）
 ＊参加登録にはPeatixのアカウントが必要です。
- 研究発表概要集について：
- ・全参加者へデータで配布します。各位、ダウンロードしてご覧ください。
 - ・大会前日までに第60回発表会案内へ研究発表概要集のデータファイル（閲覧制限あり）を掲載します。閲覧に必要なパスワードは、ご登録いただいたメールアドレスへ大会前日までにお知らせします。
 - ・発表会場において研究発表概要集の販売はありません。
- 発表会場Wi-Fiについて：
- ・発表会場では当日限定でWi-Fiをご利用できます。IDとパスワードは受付時に配布します。eduroam（国際学術無線LANローミング基盤）もご使用いただけます。
- 昼食・交流会について：
- ・構内で昼食を購入することができませんのでご持参ください。
 - ・交流会でのスイーツの交流も大歓迎ですので皆さんのオススメをお持ち寄りいただけますと幸いです。
- 論文投稿者説明会について：
- ・11：50～12：30に12号館308教室で開催します。今年度改訂される投稿規定のポイント解説及びオンライン査読システム利用による投稿方法について説明を行いますので、今年度投稿予定ではない会員の皆さまもできるだけご参加ください。



発表者のみなさまへ

- 発表時間：口頭発表20分＋質疑応答5分
- 発表方式：スライド、動画等を用いたプレゼンテーション
 ◎接続確認は、8：45～9：15または昼食＆交流会の時間帯に各教室で行えます。
 ＊発表者はPC等の端末を会場に持参してください。
 ＊HDMI接続となりますので必要な方は変換プラグをご持参ください。

大会・会場に関するお問合せ
 研究局 inseajp.research@gmail.com
 ※●を@に変更してください。

第60回 日本美術教育研究発表会2026

2026（令和8）年10月4日（日）

会場：武蔵野美術大学鷹の台キャンパス

8:45	受 付				
9:15	開 会 式 201教室			※発表者控室：303教室	
※移動※					
会場	A	B	C	D	E
	A会場308教室（理論等）	B会場301教室（実践幼・小）	C会場302教室（実践中・高・大）	D会場305教室（教員養成／教師教育）	E会場304教室（海外事例／海外研究者）
9:40	A-1 美術教育における自己調整学習の理論的拡張—概念的発展を内包する理論的枠組みの提示— 長友 紀子 山口大学 A群	B-1 地域芸術祭における「泥遊び」ワークショップの研究—「泥遊び」の質的分析の展開— 三上 悠 東洋英和女学院大学 B群	C-1 中学校美術科における工芸教育の現代的課題に関する調査 古川 拓明 東京学芸大学連合大学院博士課程 A群	D-1 免許外教科担任による中学校美術科の現状と問題—青森県の教員に対するインタビュー調査に基づく仮説構築と量的検証— 佐藤 絵里子 弘前大学 A群	E-1 美術教科書からみたアメリカの小学校のSTEAM教育の動向No.2 藤井 康子 大分大学 C群
10:05	司会：西村		司会：片桐		司会：池田
10:10	A-2 A/r/tographyに基づいた協同探究モデルの構築—「問いかけ」を起点とする探求過程の考察— 廖 晴彤 山形大学 A群	B-2 アトリエから生まれる造形的な遊び—大学付属幼稚園での実践— 三上 悠 東洋英和女学院大学 B群	C-2 制作過程としての「編集」—高校美術科におけるZINE制作の実践から— 川人 武 筑波大学附属駒場中・高等学校 B群	D-2 ABRのアプローチを接続した教職大学院の小モジュール実践：教育とアートをつなぐ「斜め横断性」 茅崎 萌 梅門教育大学 B群	E-2 米国の教育機関における学習者中心の学びを支える学習経験のデザイン—Design@RCCampus, High Tech High Mesa, RISDの視察調査から— 嶋山 未史 橋幸学園大学 C群
10:35	司会：西村		司会：片桐		司会：池田
休憩（10分）					
10:45	A-3 「あそび的なまび」を基盤とした図画工作科の学習過程の再構築—主体的・対話的で深い学びを促す造形的な探究活動の実践を通して— 3 竹内 とも子 新宿区立柏木小学校 B群	B-3 地域芸術祭における「泥遊び」ワークショップの研究—「泥遊び」の質的分析の展開— 馬場 千晶・岡野 茜・石原 加奈子 昭和学院短期大学・東京学芸大学・清心幼稚園 B群	C-3 中学校における「造形実験」の可能性について 大黒 洋平 東京都文京区立第九中学校 C群	D-3 図画工作・美術科教員養成課程の卒業論文におけるアートベース、リサーチの可能性—指導のリフレクションと課題— 佐藤 貴帆 千葉大学 C群	E-3 美術教育における国際交流を通じた人材育成の—在外教育施設ソウル日本人学校における発展的教育実習を通して— 尾澤 勇・有馬 亮子 秋田公立美術大学・秋田公立美術大学 B群
11:10	司会：廖		司会：川人		司会：山田
11:15	A-4 美術教育における「意味生成」論の構造的考察：（significance）概念受容における「創造」と「伝達」の対置を手がかりに 4 宮坂 明彦 立教大学 A群	B-4 簡易なプロセスで授業を構造的に捉える図画工作科の授業づくり—4コマ漫画学習指導書の活用を通して— 糸井 光 藤岡市立美土里小学校 C群	C-4 うまくいかなさる面白がる美術の授業—「へぽこん」がもつ関係論的学びとしての可能性— 岩瀬 恒太郎・井上 昌樹・茂木 克浩 岐阜県立田原南中学校・青森短期大学・群馬県立大学大学院修士課程 B群	D-4 A/r/tographyに基づく実践共同体における教師の組織性の更新—視覚表現と語りとの往還及び他者との反置に着目して— 松本 貴子・森本 謙・小島 菜穂子・石川 ひとみ・宮崎 陽平 東京学芸大学連合大学附属短期大学・東京学芸大学・筑波大学附属短期大学・東京学芸大学連合大学附属小学校・東京学芸大学・筑波大学附属小学校・秋田県立立川南中学校・福島県立立川南中学校・東京学芸大学 A群	E-4 美術教育における国際交流を通じた人材育成の—在外教育施設ソウル日本人学校における発展的教育実習を通して— 尾澤 勇・有馬 亮子 秋田公立美術大学・秋田公立美術大学 B群
11:40	司会：廖		司会：川人		司会：茅崎
11:50	論文投稿者説明会 11:50—12:30				
14:00	昼食&懇親会 12:30—14:00 201教室				
	A	B	C	D	E
	A会場308教室（理論等）	B会場301教室（制作論・理論）	C会場302教室（実践中高大）	D会場305教室（教師教育・教員養成・保育者養成）	E会場304教室（海外研究者） オンライン
14:05	A-5 図画工作科では情動がどのように位置づけられてきたか—教科用図書写真の分析から— 5 守屋 雄 駒沢女子短期大学 A群	B-5 乳児における造形活動の実践記録と「表現」の教育的意義 三木 麻都 無所属 B群	C-5 移行期におけるASD生徒の特性に配慮した美術教育の試み—「学びの共生」をかなえるための題材開発— 佐々木 敬幸 明里大学 C群	D-5 図画工作科・美術科の授業づくりをめぐる教師の判断—ワークショップのフィードバックを用いた質的統合法による分析— 小宮 明久・牧牛 晴太・伊藤 翔・大迫 千晶・森本 裕希・西村 達行 宮崎県立大学・東京学芸大学附属短期大学・東京学芸大学・筑波大学附属短期大学・東京学芸大学連合大学附属小学校・東京学芸大学・筑波大学附属小学校・秋田県立立川南中学校・福島県立立川南中学校・東京学芸大学 A群	E-5 Development of cultural literacy through creative learning in public spaces: Reflection on two research projects in Czech republic Pavla Gajdošková・Lucie Jakubcová・Hajdůšková Charles University, Faculty of Education, Department of Art Education Charles University, Faculty of Education, Department of Art Education A群
14:30	司会：佐藤		司会：和久井		司会：大杉
14:35	A-6 根拠文献における実践の論議と「造形遊び」—「行為としての美術教育」を構築として 6 清家 暁 東京学芸大学 A群	B-6 幼児の「感じ・考える」美術教育はいかに可能か—Computational Thinkingと多感覚性に関する先行研究の検討— 井上 昌樹・茂木 一司 育英短期大学・駒沢大学女子大学 C群	C-6 朝顔紙の取り組みと成果報告Ⅲ 三澤 一実 武蔵野美術大学 C群	D-6 子どもの表現を「おもしろがる」教師のまなざし—美術教育における「わからなさ」に開かれた関わり可能性— 茂木 克浩 長崎造形大学大学院博士後期課程 A群	E-6 An experimental approach to art education using analog slides: light, photographic materiality, and exploration through materials. Ana Maria Marqués Ibáñez University of La Laguna A群
15:00	司会：佐藤		司会：和久井		司会：大杉
15:05	A-7 科研費基盤研究B 2004→A 2007→A 2011→2014年度の展開 7 山口 直雄 元 宇都宮大学 C群	B-7 創造的活動を駆動する「スリル」の動機付け機能—カイロツ遊び論の「空白」を手がかりとした創造的基盤の再検討— 川崎 紀弘 淑徳大学 C群	C-7 3Dプリンターを活用した造形活動の実践と記録に関する研究—立体作品のデジタル化と造形表現への展開— 横田 造子 東京学芸大学 B群	D-7 図画工作科の指導力向上のための研修プログラムの開発—教員に対する質的調査から研修プログラム設定へのアプローチ— 吉田 岳雄 甲府田大学大学院教育学研究科 C群	E-7 Learning through cyanotype artistic process: recreation of natural elements through light applied as an activity for art education Angela Bejarano Quintero Tacoronte・Ana Maria Marqués Ibáñez University of La Laguna・University of La Laguna A群
15:30	司会：小林		司会：和久井		司会：大杉
15:35	A-8 美術教育における能力 8 柳 芝英 韓国南川教育大学 C群	B-8 現代アートの境界拡張性が生み出す予測誤差とスキーマ学習—認知科学の理論に基づく美術教育の理論的再検討— 長谷川 聡 早稲田大学 大学院教育学研究科 博士後期課程 C群	C-8 現代アートの境界拡張性が生み出す予測誤差とスキーマ学習—認知科学の理論に基づく美術教育の理論的再検討— 長谷川 聡 早稲田大学 大学院教育学研究科 博士後期課程 C群	D-8 保育者養成課程の学生による幼児の見立ての読み直し—保育実践エピソードと自然材料を用いた造形体験の往還を通して— 金井 仁美・小島 菜穂子・小宮 明久 京都府立南丹中学校・奈良大学短期大学・茨城リリスト大学 A群	E-8 Negotiating Hope and Anxiety: From the Studio to Socially Engaged Art Education Maria Letsiou Department of Early Childhood Education The School of Humanities A群
16:00	司会：小林		司会：井上		司会：笠原
16:05	A-9 「この星の話し方」—不登校の子どもたちとくらくら観察による描画表現ワークショップの実践報告 9 中村 唯美 和光大学 B群	B-9 空間の「feel（感じ）」を翻訳する造形表現—身近な環境特性を発想資源とする実践から— 立川 孝史 東京家政学院大学 B群	C-9 空間の「feel（感じ）」を翻訳する造形表現—身近な環境特性を発想資源とする実践から— 立川 孝史 東京家政学院大学 B群	D-9 ドラマの手法を活用した図画工作科・美術科教員養成の試み：アートコミュニケーションを通して美術科の「喜び」に迫るか 岩崎 仁美 北海道教育大学 B群	E-9 美術教育者向けの「カウダーフィン」から、学生を対象とした国際交流プロジェクトへ Bernadette Thomas・Maria Letsiou・Aya Katagiri University of La Laguna・Department of Early Childhood Education The School of Humanities University of La Laguna・University of La Laguna C群
16:30	司会：小林		司会：井上		司会：笠原
16:40	閉会式 201教室				

■日本美術教育研究論集2027 第60号■

論文投稿案内

研究論集編集委員会 立 川 泰 史

投 稿 要 項**1 投稿ならびに掲載の条件**

第60回日本美術教育研究発表会の発表者及び第59回発表者で論文未投稿者は、『日本美術教育研究論集2027第60号』に投稿できます。投稿論文の研究論集への掲載は、次の(1)～(7)の条件を全て満たしたものに限り、(6)の新規事項①～③に関する詳細は後述の〔註〕を参照してください。なお、年度内に筆頭著者として投稿できる論文は、1本のみとします。

(1)投稿論文の題目（タイトル語句）と内容が、研究発表会の発表論考と同じであること。

(2)投稿原稿の内容が、未発表かつオリジナルなものであること（重複投稿の禁止）。

(3)投稿原稿の内容が、投稿された群において次に定義する内容に適合していること。

A群（理論・実践研究論文：原著論文）…独創性があり、学術的価値を有する知見が含まれた論文。（※この群のみ「英文サマリー」を必須とする）

B群（実践研究報告等）…新規的な内容を含む、すぐれた美術教育実践研究の報告。

C群（研究ノート）…新しい研究テーマや解決すべき問題を展望的に紹介するもの。

(4)投稿原稿において、論文投稿規程にある書式及び分量等が守られていること。

(5)掲載料を論文の投稿〆切日時の2026年11月2日（月）24：00までに納入し、送金証明書（利用明細書等の画像ファイル）を添付していること。

(6)『論文投稿規程』に則して次に示す全事項について確認し、その責任の所在に同意して『論文投稿要件適合確認書』を提出していること（註1）。

①投稿者は『公益財団法人日本美術教育連合 著作権規定』に示される全事項に合意し、「著作者による保障等（第6条）」に準拠した内容を確認し、著作権・特許権・実用新案権・意匠権・商標権・ドメイン・ネーム及びその他の知的財産権並びにこれらの出願または登録に関する権利等を侵害していないこと（註2）。

②研究倫理に反していない、研究対象者の合意を得て人権や安全等に配慮していること。投稿時においては、大学等の研究倫理委員会の承認、あるいは研究（調査）対象者・対象機関所属長等への説明と合意（16歳未満の保護者・監督者等の代諾）の取得、研究対象者の人権・肖像権・個人情報等に配慮したこと及びこれらの事項の措置に関する責任の所在が投稿者に帰することを保証できること（註3）。

③生成AI（Artificial Intelligence）やAI支援ツール（以下生成AI等）は、著者として認められないことを理解できている。また、生成AI等を使用し、仮に誤った情報が含まれたとしても、投稿論文の内容に関する最終責任は著者自身が負うことを理解できている（註4）。

(7)研究論集編集委員会による総合審査において、投稿原稿の掲載が妥当と判断されること。

2 論文査読

A群：理論・実践研究論文（原著論文）は3名、B群：実践研究報告等・C群：研究ノートは2名が査読を行い、研究論集編集委員会での総合的な審議を経て掲載の可否を決定します（査読基準を参照）。

掲載が決定した論文は、編集委員会による「論評」を研究論集〈論評の部〉に掲載します。

3 原稿書式

A群・B群・C群ともに、本文／図版（写真・表・図等）と脚註、及びA群のみ必須の「英文サマリー」を含め、下記の《書式・文字数》を厳守して下さい。

- (1) 1頁分の基本書式は、A 4・横組・2段組、「23字×44行」×2段組＝2024字、とします。但し、第1頁の1行目から2段取り（1段組に統合）で「題目（副題）、所属、氏名」（それらの英文表記またはローマ字表記も含む）を記載します。本文は、1頁目の10行目から2段組で書き始めます。

※現職をもち大学院等に所属する場合は、どちらか一方の所属を選択して記載。

※学部・大学院に所属する学生は、在籍する課程またはコース等も記載。

※論文作成にあたっては、原稿テンプレートを研究局ホームページからダウンロードして使用（後掲、URLリンク先）。

※文末脚註、A群で必須の「英文サマリー」においても、所定のテンプレートの書式に準拠。

- (2) 原稿では、共通の「項立て・見出し番号」として、以下の番号・見出し語のみとします。大項目 1. 2. 3. [半角英数字] …、中項目 (1) (2) (3) …、小項目 ① ② ③ …。

- (3) 図版は、十分な解像度（印刷実寸で300～350dpi程度）があり、グレースケール印刷でも細部まで判別できる（図版等の画像データは、掲載確定後に本文テキストと別フォルダにて提出を求める）（※テキスト入り罫線組みの「表」は画像としない）

- (4) 脚註（引用・参考文献含む）は、文末脚註とすること

引用文献は、文末脚註に「著者名・『著書名』・刊行所・発行年・引用頁」の順、引用論文は、[執筆者名・「論文名」・『掲載誌名』・発行所・発行年・引用頁]の順で記述。

4 掲載料（事前納入）について

・A群・B群・C群ともに、18,000円。8頁（C群のみ6頁も可）を原則とし、上限は12頁です。2頁増すごとに6,000円を加算（奇数頁でも、余白頁を含み2頁増として計算）します。

よって、9～10頁では、24,000円、11～12頁では、30,000円となります。

・カラーのページが必要な場合は、1頁につき12,500円を加算します。

・抜き刷り（50部限定）は、8頁モノクロで7,000円。2頁増ごとに2,000円を加算します。抜き刷りのカラーページは、1頁ごとに2,000円を加算します。

※下記に納入し、利用明細書の画像ファイルを投稿用プラットフォーム内に添付します。

- (1) 口座記号番号：00170-1-86036（右寄せで記入）郵便振込です。

- (2) 加入者名：公益社団法人 日本美術教育連合

- (3) ご依頼人：〒郵便番号・住所・氏名・電話番号・所属機関（現職教員の院生は、本務学校が在籍する課程をもつ大学院か、いずれかひとつを選択）

- (4) 通信欄：例) 掲載料18,000円（8頁）＋増頁分6,000円（2頁増の場合）＝24,000円（計10頁）

- (6) 抜き刷り（50部）、カラー頁を希望する場合、通信欄にも明記し、必要金額を加算してください。

- (7) 掲載に至らない場合、納入した掲載料の内6,000円を引いた金額を返金します。

5 投稿締め切り 2026（令和8）年11月2日（月）24：00

6 新しい投稿方法と詳細説明について

第60回研究発表会の当日、新規に導入する「オンライン査読システム」の投稿方法について説明会を設けます。

時程・場所を二次案内で確認し、PC持参にて必ずご参集ください。

7 投稿内容

A群・B群・C群ともに、次の①～⑫を提出します。

① 氏名、② 所属、③ 投稿区分（群）、④ 論文題目、⑤ 日本美術教育連合著作権規定に関する同意、⑥ メールアドレス、⑦ 連絡先住所、⑧ カラー頁の有無、⑨ 抜刷希望の有無（50部束限定）、⑩ 論文ファイル（word・PDFの2種）、⑪ 掲載料入金証明書の画像ファイル、⑫「論文投稿要件適合確認書」のチェック済みファイル

※投稿原稿は、完全原稿とし、締め切り期日以降の差し替え・変更は認められません。

※発行日は、2027（令和9）年3月31日を予定しています。

8 問合せ先：研究論集編集委員会 研究論集編集委員長 立川泰史（東京家政学院大学）

e-mail：tachikawa@kasei-gakuin.ac.jp

9 書式ダウンロードURL（論文投稿journal内：inseajp-research.jimdofree.com）

註

註1）これまで「投稿者確認用ループリック」として代表著者から提出していただいたものを、新規に『論文投稿要件適合確認書』として位置付けています。ここでは、書式のような〈事務レベルの要件〉のほか、研究実施者が科学的・社会的な信頼を保つために遵守したい行動規範等としての〈実務プロセス〉も含みます。そして、これら全ての「投稿要件」に適合していることを投稿前に確認していただきます。投稿の際、代表著者はすべての要件項目について確認し、その責任の所在に同意したうえで『論文投稿要件適合確認書』を提出してください。

註2）著作権などの「知的財産権」に関する適切な処理手続きの履行状況を確認してください。学術的な調査活動を行う際、知的財産権（特に著作権と特許権）に関して最も注意すべき重要事項は、「他者の権利を侵害しないこと（盗作・無断転載の防止）」と「自身の新規発明の権利を失わないこと（公知による特許権喪失の防止）」の2点といわれます。特に、適切な「引用」の徹底について、他者論文から文章を引く場合は「主従関係（自身の文が主、引用が従）」を保ち、出典元（著者名、論文名、出版年など）をテンプレートの書式で明記してください。図表・画像（写真・イラスト等）の無断転載に注意し、原作者や出版社の「転載許諾（ライセンス）」の取得などの手続きを行い、著作権を侵害していないか確認します。

註3）「倫理的配慮」には、研究計画から目的、調査分析、データ管理等に関する事項があります。特に「人を対象とする研究」における研究対象者への「説明と同意」、あるいは「撤回の自由」といった人権・人格の尊重、肖像権や個人情報の管理等に関する適切な手続きなどを含みます。教育実践研究のフィールドワークでは、幼児・児童を研究調査対象とする場合も少なくありません。調査内容・方法によっては、対象者が16歳未満の場合に保護者・教育期間の長などへの「説明と代諾」が必要になる場合もあります。利益相反やデータ管理（期間・場所）についても計画時に留意し、研究倫理審査委員会の承認や第三者の客観的な助言を仰ぐ等を推奨します。

註4）生成AIの使用に関する留意点も、新しく要件項目にあげています。生成AIは、研究論文の「著者または共著者」になることはできません。著者は研究データや結論の「正確性」「整合性」「独創性」に対して全ての責任を負い、査読による指摘にも説明責任があります。生成AIは自らの意思でこうした責任を負うことができません。著者要件を満たさないAIやAI支援ツールが構成した文から引用することも認めない国際標準もありますが、最終的な著作内容に係る全責任は「著作者（ひと）に帰属する」と理解してください。

■「日本美術教育研究論集」論文投稿規程■

1 論文の投稿資格（受理基準）

- (1)論文投稿者は、単著・共著ともに公益社団法人日本美術教育連合の正会員である
- (2)投稿論文の筆頭著者が、論文投稿年度における「日本美術教育研究発表会」の発表者である
- (3)投稿論文の筆頭著者が、「日本美術教育研究発表会」の発表年度または翌年度のうちに投稿する
- (4)正会員である論文投稿者が期日（投稿締め切り日）までに、年度会費および本規程の定める論文掲載料を完納している
- (5)代表著者は「論文投稿要件適合確認書」の内容と確認責任の所在に合意し、これを提出している。

2 投稿論文の範囲・内容

- (1)投稿論文の内容が、美術教育に関する内容である
- (2)投稿論文の内容及び研究手続きにおいて、人権及び研究倫理全般に抵触していない
- (3)投稿論文の題目と内容が、日本美術教育研究発表会における発表内容と同じである
- (4)投稿論文の内容が、未発表かつオリジナルの内容である（再投稿は次年度以降可）
- (5)投稿論文の内容が、投稿された各郡の下記の種別内容（A～C群）に適合している

A群（理論・実践研究論文）

- ・独創性があり、学術的価値を有する知見が含まれた論文。
- ・研究の背景、目的、用いた研究方法（調査・分析の観点や手法）が明確に述べられ、結論や意義が考察されている。

B群（実践研究報告等）

- ・新規的な内容を含む、すぐれた美術教育実践研究の報告。
- ・単なる実践の紹介やハウツーではなく、実践の価値や意義が論じられている。

C群（研究ノート）

- ・美術教育分野における新しい研究テーマや解決すべき問題を展望的に紹介するもの。
- ・原著論文や実践研究報告までは至っていないが、ある程度まとまった研究や調査等の結果を記述したものの。

3 掲載の条件

- (1)投稿論文が、投稿時にエントリーした論文区分（A群・B群・C群）の内容に適合している
- (2)A群・B群・C群ともにテキスト・図版等について事項4に示す「論文の書式」を厳守している
- (3)A群の投稿論文は「英文サマリー」を有し、投稿者の責任に基づきネイティブチェック等を通して、当該論文の概要を適切に記している
- (4)投稿者（論文著者）は、『公益財団法人日本美術教育連合 著作権規定』に示される全事項に合意し、「著作者による保障等（第6条）」に準拠して次の事項を確認している
 - ①第三者の著作権、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、ドメイン・ネーム及びその他の知的財産権並びにこれらの出願または登録に関する権利等を侵害していないこと。
 - ②本著作物が二重投稿でない（もしくは過去に一切公表されたことがない）こと。既出の論考と同じまたは類似した課題名をもつ継続研究である場合は、当該研究に至る経緯や先行研究との関連を説明している。
 - ③本著作物が共同著作物である場合には、本法人への投稿を行うにあたり、当該共同著作物の他の著作者

全員の同意を取得していることを保障できる。本著作物において第三者の著作物を引用する場合には、出典を明記している。

- ④研究倫理に反していない、研究対象者の合意を得て、人権や安全等に配慮している。投稿時には、大学等の研究倫理委員会の承認、あるいは研究（調査）対象者・対象機関所属長等への説明と合意（16歳未満の保護者・監督者等の代諾）の取得、研究対象者の人権・肖像権・個人情報等に配慮したこと及びこれらの事項の措置に関する責任の所在が投稿者に帰することを保証できる。
- ⑤生成AI（Artificial Intelligence）やAI支援ツール（以下生成AI等）は、著者として認められないことを理解できている。また、生成AIを使用し、仮に誤った情報が含まれたとしても、投稿論文の内容に関する最終責任は著者自身が負うことを理解できている。

4 論文の書式

- (1)A群・B群・C群ともに、本文および図版（写真・表・図等）、及びA群のみの「英文サマリー」を含め、次に示す文字数、表記の形式をとる
 - ①1頁分の構成と文字数は、A4判・横書き・2段組、23字×44行×2段＝2024字
 - ②8頁（C群のみ6頁も可）を原則とし、12頁を上限とする
 - ③題目（副題）、所属、氏名は、第1頁の1行目から2段組を1段組に統合して記載し（題目の英語表記、所属、氏名の英文表記も含む）、本文は10行目から2段組で書き始める
 - ※現職をもち大学院等に所属する場合は、どちらか一方の所属を選択して記す
 - ※学部・大学院に所属する学生は、在籍する課程またはコース等も記す
 - ※論文作成にあたっては、原稿テンプレートをホームページよりダウンロードして使用すること
 - ※文末脚注、A群必須の英文サマリーにおいてもテンプレート書式に準拠している。
 - ④共通の項立て・見出しを用い、以下の番号と見出し語のみを使用する
 - ※大項目 1、2、3（半角英数字）…、中項目(1)、(2)、(3)…、小項目 ①、②、③…
 - ⑤図表は、十分な解像度（印刷実寸で300～350dpi）があり、グレースケール印刷でも細部まで判別できる（図表等の画像データは、掲載確定後に本文テキストと別フォルダにて提出を求める）
 - ⑥脚注（引用・参考文献含む）は、文末脚注とすること
 - ※引用著書は、著者名・『著書名』・刊行所・発行年・引用頁（例：pp.1-3、p.6）
 - ※引用論文は、執筆者・「論文名」・『掲載誌名』・発行所・発行年・引用頁
 - ⑦投稿後のカラー頁への変更及びその逆への変更は、原則として認められない

5 論文の掲載料

- (1)A群・B群・C群の掲載料は、一般（給与を得ている内地留学生等を含む）、院生・学生ともに一律18,000円とする
- (2)8頁から2頁増ごとに6,000円を加算（奇数頁の場合でも余白頁を含めて2頁増として計算）
 - （例）10頁では、24,000円（9頁でも同じ）
 - 12頁では、30,000円（11頁でも同じ）
- (3)カラーページの場合は、1頁につき12,500円を加算
- (4)抜き刷り（一律50部）は、8頁モノクロで7,000円、2頁増ごとに2,000円を加算する
 - 抜き刷りのカラーページは、1頁ごとに2,000円を加算する
- (5)論文掲載料は下記の所定口座に納入し、送金証明書（利用明細書のコピー等）を投稿論文に同封する
 - ①口座記号番号：00170-1-86036（右寄せで記入） 郵便振込

- ②加入者名 : 公益社団法人日本美術教育連合
- ③ご依頼人 : 郵便番号、住所、氏名、電話番号、所属
- ④通信欄 : 例) 掲載料18,000円 (8頁)
 + 増頁分6,000円 (2頁増の場合) = 24,000円 (計10頁)

※抜き刷りを希望の場合はその旨明記し、必要な金額を加算

- (6)査読の結果、掲載に至らない場合は、納入した掲載料の内6,000円を引いた金額を返金する

5 査読要領

- (1)査読審査は、A群：主査1名、副査2名、B群・C群：主査1名、副査1名で査読される。
- (2)査読にあたっては、本規定による、1 論文の投稿資格、2 投稿論文の範囲・内容、3 掲載の条件、4 論文の書式などの要件・要領を全て満たしていることを考慮する。
- (3)学術的論考としての一般的な基準（問題意識、研究目的・方法の妥当性や信頼性、主題内容の新規性・有用性、言語表記や構成の論理性、文献の扱い、倫理指針）に問題がないことを確認する。
- (4)査読者は投稿区分別の評価観点に基づき以下の一つに判定し、付随意見を査読報告書に記入して論集編集委員会に報告する。
- 「A」：掲載（投稿者は、査読者の許可なく投稿原稿に一切の変更を加えられない）
- 「B」：条件付き掲載（修正を条件に掲載可）とする。投稿者は査読意見に沿って指摘箇所を修正する。但し、査読者が指摘した箇所または内容と異なる修正、論文の趣旨に係る大幅な内容の変更や加筆は加えられない。また、掲載確定後の著者校正においても同様とする）
- 「C」：掲載不可（論考内容や書式等に容易に修正できない問題、掲載条件の不履行等を含む）
- (5)理事および運営委員で構成される論集編集委員会は、査読結果に基づき以下の判定を行う。

A群は、3名の査読者の判定結果を下記に示す要領に基づいて総合的に判定する。

- 「A」：A A A（掲載）
- 「B」：A A B（条件付掲載）・A A C（条件付掲載）・A B B（条件付掲載）
 A B C（条件付掲載）・B B B（条件付掲載）・B B C（条件付掲載）
- 「C」：A C C（掲載不可）・B C C（掲載不可）・C C C（掲載不可）

B群・C群は、2名の査読者の判定結果を下記に示す要領に基づいて総合的に判定する。

- 「A」：A A（掲載）
- 「B」：A B（条件付掲載）・B B（条件付掲載）
- 「C」：A C（掲載不可）・B C（掲載不可）・C C（掲載不可）

- (6)掲載不可となった論文は、「日本美術教育研究発表会」で発表した翌年度まで再投稿できる。論文は新規投稿として受け付け、査読審査を行う。ただし、年度内で筆頭著者として投稿できる論文は1本とする。尚、共著者（として投稿する場合）はこの限りではない。
- (7)投稿者は、査読結果に関する異議申し立て等について、書面を通じてのみ研究論集編集委員会に問い合わせることができる（書式不問）。
- (8)投稿した群の変更やそれにより生ずる査読結果の改訂は、原則として認められない。

付記：本規程は、令和8年8月23日から施行する。

『日本美術教育研究論集』 論文投稿要件適合確認書

代表著者は、下表の投稿要件に係る全項目に適合することを確認されたうえで、確認責任の所在に同意する項目（冒頭枠）に最終チェックを入れ、投稿時に提出してください。

✓	投稿要件の確認責任の所在について	
	代表著者として、共同著者全員の同意のもと、以下の投稿要件すべての確認に虚偽がないことを認め、その内容に責任を負うことに同意します。	
	事実と異なる報告が確認された場合、論集編集委員から代表著者へ問い合わせをすることがあります。	
✓	1 論文の投稿資格（受理規定）について	
	1_1	論文投稿者は、単著・共著ともに公益社団法人日本美術教育連合の正会員である。
	1_2	投稿論文の筆頭著者が、論文投稿年度および投稿前年度において「日本美術教育研究発表会」の発表者である。
	1_3	正会員である論文投稿者が、期日（投稿締め切り日）までに「年会費」及び本規程の定める「論文掲載料」を完納している。（4_5 参照）
	1_4	「論文掲載料」の納入証明（利用明細書）を論文投稿フォーマットに添付した。
✓	2 論文の投稿範囲・内容について	
	2_1	投稿論文の内容が、美術教育に関する内容である。
	2_2	投稿論文の内容及び研究手続きにおいて、人権及び研究倫理全般に抵触していない。
	2_3	投稿論文の題目と内容が、日本美術教育研究発表会における発表したものと同一である。
	2_4	投稿論文の内容は、未発表かつオリジナルの内容である（再投稿は次年度に限り可）。
	2_5	投稿論文の内容が、下記に示す A～C 群の内容に適合している。
		A 群（理論・実践研究論文） ・ 独創性があり、学術的価値を有する知見が含まれた論文。 ・ 研究の背景、目的、用いた研究方法（調査・分析の観点や手法）が明確に述べられ、結論や意義が考察されている。
		B 群（実践研究報告等） ・ 新規的な内容を含む、すぐれた美術教育実践研究の報告。 ・ 単なる実践の紹介やハウツーではなく、実践の価値や意義が論じられている。
		C 群（研究ノート） ・ 美術教育分野における新しい研究テーマや解決すべき問題を展望的に紹介するもの。 ・ 原著論文や実践研究報告までは至っていないが、ある程度まとまった研究や調査等の結果を記述したもの。
✓	3 論文のサマリーと倫理的配慮について	
	3_1	A 群への投稿論文においては、「英文のサマリー」を有しており、

		かつ、当該論文の概要を適切に記している（ネイティブチェック推奨）。
3_2		『公益財団法人日本美術教育連合 著作権規定』に示される全事項に合意している。 「著作者による保障等（第6条）」に準拠し、次の事項を確認している。 ① 第三者の著作権、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、ドメイン・ネーム及びその他の知的財産権並びにこれらの出願または登録に関する権利等を侵害していないこと。 ② 本著作物が二重投稿でない（もしくは過去に一切公表されたことがない）こと。既出の論考と同じまたは類似した課題名をもつ継続研究である場合は、当該研究に至る経緯や先行研究との関連を説明している。 ③ 本著作物が共同著者物である場合には、本法人への投稿を行うにあたり、当該共同著作物の他の著作者全員の同意を取得していることを保障できる。本著作物において第三者の著作物を引用する場合には、出典を明記している。 ④ 研究倫理に反していない。研究対象者の合意を得て、人権や安全等に配慮している。 投稿時においては、大学等の研究倫理委員会の承認、あるいは研究（調査）対象者・対象機関所属長等への説明と合意（16歳未満の保護者・監督者等の代諾）の取得、研究対象者の人権・肖像権・個人情報等に配慮したこと及びこれらの事項の措置に関する責任の所在が投稿者に帰することを保証できる。
✓	4	生成 AI の使用について
	4_1	生成 AI は著者として認められないことを理解できている。
	4_2	生成 AI を使用し、仮に誤った情報が含まれたとしても、投稿論文の内容に関する最終責任は著者自身が負うことを理解できている。
✓	5	論文の書式について
	5_1	(1) 1 頁分の構成と文字数は、A4 判・横書き・2 段組、23 字×44 行×2 段=2024 字
	5_2	(2) 8 頁（C 群のみ、6 頁も可）を原則とし、12 頁を上限とする。
	5_3	(3) 題目（副題）、所属、氏名は、第 1 頁の 2 段組を 1 段組に統合して記載しする。 ここに英語表記の題目、所属と氏名の英文表記も含む。 <u>本文は、10 行目から 2 段組で書き始める。</u> ※ 現職をもち大学院等に所属する場合は、 <u>どちらか一方の所属を選択して記す。</u> ※ 学部・大学院に所属する学生は、在籍する課程またはコース等も記す。 ※ 論文作成にあたっては「 <u>原稿テンプレート</u> 」を <u>ダウンロードして使用する。</u> ※ 文末脚注、A 群必須の英文サマリーにおいてもテンプレート書式に準拠している。
	5_4	(4) 共通の項立て・見出しを用い、以下の番号と見出し語のみを使用する。 大項目 1,2,3[半角英数字] …、中項目(1),(2).(3) …、小項目 ① ② ③ …
	5_5	(5) 図表は、十分な解像度（印刷実寸で 300～350dpi 程度）で鮮明に読める。 図表番号・キャプション等が、投稿書式に即して付されている。
	5_6	(6) 脚注（引用・参考文献含む）は、文末脚注とする。 引用著書は、著者名・『著書名』・刊行所・発行年・引用頁（例：pp.1-3、p.6）

		引用論文は、執筆者・「論文名」・『掲載誌名』・発行所・発行年・引用頁		
✓	6	論文の掲載料について		
	6_1	A 群・B 群・C 群ともに掲載料は、一般（給与を得ている内地留学生等を含む）・学生ともに一律 18,000 円とする。		
	6_2	8 頁から 2 頁増ごとに、6,000 円を加算 （論文の総頁数が奇数頁の場合でも、余白頁を含めて 2 頁増として計算） （例）10 頁では、24,000 円 （ 9 頁でも同じ） 12 頁では、30,000 円 （11 頁でも同じ）		
	6_3	カラー頁の場合は、1 頁につき 12,500 円を加算（投稿後にカラー頁への変更は不可）		
	6_4	抜き刷り(一律 50 部)は、8 頁モノクロで 7,000 円、2 頁増ごとに 2,000 円を加算 抜き刷りのカラーページは、1 頁ごとに 2,000 円を加算		
	5_5	論文掲載料は下記の所定口座に納入し、送金証明書(利用明細書のコピー等)を同封 ① 口座記号番号：00170-1-86036（右寄せで記入） 郵便振込 ② 加入者名：公益社団法人 日本美術教育連合 ③ ご依頼人：郵便番号、住所、氏名、電話番号、所属 ④ 通信欄：例) 掲載料 18,000 円（8 頁） ＋増頁分 6,000 円（2 頁増の場合）＝24,000 円（計 10 頁） ※ 抜き刷りを希望の場合は、その旨明記し、必要額を加算		
	6_6	査読の結果、掲載に至らない場合は、納入した掲載料の内 6,000 円を引いた金額を投稿者に返金することを承諾する		
■ 査読要領 ■				
1	査読審査においては、A 群：主査 1 名、副査 2 名、B 群・C 群：主査 1 名、副査 1 名で査読される。			
	区分	査読者数	頁数	備考
	A 群：理論。実践研究論文	3 名	8—12 頁	主査 1 名、副査 2 名
	B 群：実践報告	2 名	8—12 頁	主査 1 名、副査 1 名
	C 群：研究ノート	2 名	6—12 頁	
2	査読にあたっては、本規定による、1 論文の投稿資格、2 投稿論文の範囲・内容、3 掲載の条件、4 論文の書式などの要件・要領を全て満たしていることを考慮する。			
3	学術的論考としての一般的な基準（問題意識、研究目的・方法の妥当性や信頼性、主題内容の新規性・有用性、言語表記や構成の論理性、文献の扱い、倫理指針）に問題ないことを確認する。			
4	査読結果の判定規準は、以下の 3 段階とする。			
	「A」：掲載（投稿者は、査読者の許可なく投稿原稿に一切の変更を加えられない）			
	「B」：条件付き掲載（修正を条件に掲載可）とする。投稿者は査読意見に沿って指摘箇所を修正する。但し、査読者が指摘した箇所または内容と異なる修正、論文の趣旨に係る大幅な内容の変更や加筆は加えられない。また、掲載確定後の著者校正においても同様とする）			
	「C」：掲載不可（論考内容や書式等に容易に修正できない問題、掲載条件の不履行等を含む）			

5	各群における査読者の判定結果は、主査によって下表のように総合的に評価され、研究論集編集会議において最終的に判断・承認される。			
	【A群】			
	A	A A A (掲載)	—	—
	B	A A B (条件付掲載)	A A C (条件付掲載)	A B B (条件付掲載)
		A B C (条件付掲載)	B B B (条件付掲載)	B B C (条件付掲載)
	C	A C C (掲載不可)	B C C (掲載不可)	C C C (掲載不可)
	【B群・C群】			
	A	A (掲載)	—	—
	B	A B (条件付掲載)	B B (条件付掲載)	A B (条件付掲載)
	C	A C (掲載不可)	B C (掲載不可)	C C (掲載不可)
6	掲載不可となった論文は、「日本美術教育研究発表会」で発表した翌年度まで再投稿できる。論文は新規投稿として受け付け、査読審査を行う。ただし、年度内で筆頭著者として投稿できる論文は1本とする。尚、共著者（として投稿する場合）はこの限りではない。			
7	投稿者は、査読結果に関する異議申し立て等について、書面を通じてのみ研究論集編集委員会に問い合わせることができる（書式不問）。			
8	投稿した群の変更やそれにより生ずる査読結果の改訂は、原則として認められない。			

事業局より

■事業局からのお知らせ■

事業局担当理事 三 澤 一 実

■金曜夜のずこう・びじゅつ室

昨年度までの造形・美術教育力養成講座を改め、連合会員がそれぞれ実践や研究の専門性を生かし、講師となり有料のオンラインセミナーを企画中です。多様な実践や深い研究に取り組んでいる会員の知見をオンラインセミナーで広く学校教員及び美術教育関係者に紹介します。

開催時刻は金曜日の夜20時から21時30分の90分です。

□開催日及び講師（予定）10月から順次開催

伊東一誉（いとうはなよ） 横浜国立大学助教、漫画家文筆家（イトウハジメ）

梶原千恵（かじわらちえ） 宮城教育大学准教授

小西悟士（こにしさとし） さいたま市立大久保中学校教諭、武蔵野美術大学常勤講師

西村德行（にしむらとくゆき） 東京学芸大学教授、附属小学校長、日本美術教育連合理事長

■造形教育フォーラム

造形教育フォーラムは対面開催とし、オンライン配信も行います。参加費は無料で広く一般の方々に開かれた講座として開催する予定です。

□講師（未定：決まり次第HPとpeatixでお知らせします。）

イベント案内と申し込みはPeatixでおこないます。Peatixの「日本美術教育連合事業局」を開き、日本美術教育連合をフォローしておくくと日本美術教育連合のイベント案内が届きます。

国際局より

■ InSEAアジア地区評議会評議員選出、 世界びじゅつちゃんねるの報告 ■

日本美術教育連合理事・国際局運営委員長 笠原 広一

■ InSEAアジア地区評議会（ARC）評議員に手塚千尋さんが選出

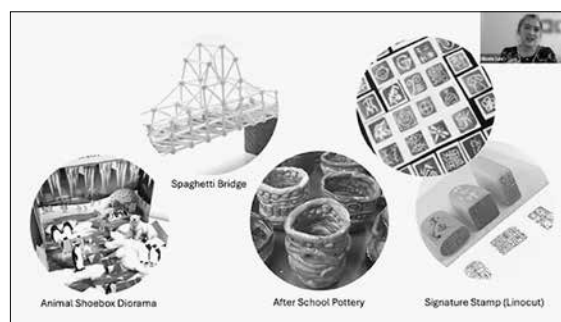
このたび、手塚千尋さん（明治学院大学）が、InSEA（International Society for Education through Art：国際美術教育学会）アジア地区評議会（ARC）の評議員に選出され、セクレタリー（Secretary）に就任されました。手塚さんは、本連合をはじめ国内外の学会や各種事業で精力的に活動されています。今後は、InSEAおよびアジア地区の美術教育ネットワークの発展と活性化に大きく貢献されることが期待されます。ご就任おめでとうございます。ご活躍を心より応援しています！

■ 第1回「世界びじゅつちゃんねる」開催！カナダの美術教育を紹介いただきました

7月19日（日）、日本美術教育連合の新しいオンライン企画「世界びじゅつちゃんねる」が事業局と国際局の連携でスタートしました。記念すべき第1回では、「カナダの美術教育探訪」と題し、カナダ東海岸と西海岸で活躍する2名の美術教育研究者をお招きし、現地の教育事情や実践についてお話しいただきました。通訳は国際局員の森本謙さんが担当しました。

東海岸のノバスコシア州ハリファックスにあるNSCAD大学の助教、ニコール・リーさんは、自身の学びの経験をたどりながら、オンタリオ州の学校制度や美術教育の特徴を紹介してくださいました。図形づくりやスパゲティで橋をつくる活動、版画や陶芸、写真表現など、小学校から高校までの多彩な学習内容を紹介するとともに、英語とフランス語、公立とカトリックという複数の教育システムが共存するカナダの学校制度や教師養成の仕組みについても説明いただきました。続いて、ブリティッシュコロンビア州ビクトリア大学の助教、マージー・モザバルザデさんは、バンクーバー市の小学校で行ったアーティスト・イン・レジデンスの実践を紹介してくださいました。テーマは「変化と記憶、そして無常性」。子どもたちが塩や小麦粉でつくった粘土や自然素材と向き合いながら、形が変わることで意味が変わっていくことについて考えていく取り組みなどが紹介されました。

今後もさまざまな国や地域の美術教育を紹介していく予定です。次回もぜひご期待ください。



ニコールさんが経験した授業の内容の紹介から



マージーさんのプロジェクトの様子から



世界びじゅつちゃんねるの参加者の皆さんと

事務局より

■事務局便り■

事務局長 岩 崎 仁 美

□会員の異動

〈退会者〉劉 綺洋 様

(これまで連合を支えていただき、まことにありがとうございました)

〈入会者〉杉山聡 様 糸井光 様 数牛勝太 様 伊藤翔 様 大迫千昌 様 金井仁美 様 石川ひかり 様
長友紀子 様

(これからどうぞよろしくお願いいたします)

□10月4日(日)に第60回日本美術教育研究発表会2026を開催いたします!

第60回日本美術教育研究発表会2026を今年も開催いたします。エントリーいただきました会員のみなさまにおかれましては、まことにありがとうございました。

本年度は、国内からは36件、海外からは5件の発表申込みがあり、多彩な発表が期待されます。会員のみなさまにおかれましては、ぜひ会員外の方も誘いいただき、本研究発表会を盛り上げていただきますようお願い申し上げます。

□令和8(2026)年度会費納入のお願い

昨年度より年会費が改定されております(7,000円へ改定)

令和8(2026)年度会費 7,000円 を 納入してください。

※(公社)日本美術教育連合の会計年度は、毎年4月1日から翌年4月末日までです。

納入期限が過ぎておりますので、まだお納めでない方はお早めの納入をお願い申し上げます。

【郵便振替】

(公社)日本美術教育連合 口座番号00170-1-86036

【ゆうちょ銀行以外の金融機関(ネット銀行を含む)からの送付先】

《銀行名》ゆうちょ銀行《支店番号》019《預金種目》当座《口座番号》0086036

*同封の振り込み用紙をご利用ください。(恐れ入りますが手数料はご負担ください。)

*当連合からお送りする振込票には、確認のため次年度分の納入費が記載されています。

*過去3年以上会費未納の方につきましては、今回ご入金いただけない場合「除名」という対応をとらざるを得ません。ぜひ納入にご協力ください。なお今回のお願いと行き違いですので納入済みの方には、失礼をお許しください。

□お問い合わせ先:公益社団法人日本美術教育連合 事務局 岩崎仁美

〒068-8642 岩見沢市緑が丘2丁目34-1

北海道教育大学 岩見沢校 芸術・スポーツ文化学科 美術文化専攻 美術教育研究室

Tel & Fax :0126-32-0367(研究室直通) E-mail :iwasaki.hitomi@i.hokkyodai.ac.jp